

広島スタディツアーを振り返る

3月26・27日、大阪ユニセフ協会の自発的に集まったメンバーとその友人の計5名で、広島へスタディツアーを行いました。目的は、若いメンバーは戦争の悲惨さを知らないので、世界で初めて原子爆弾を落とされた広島を訪れて学ぶためでした。

1日目は、午前平和記念資料館の見学、午後平和記念公園内の見学。2日目は、午前被爆2世の方の講演、午後からはNPO法人ピースマスクプロジェクトの講演という日程です。幸いなことに、多くの人から貴重な話を聞くことができました。そして、平和記念公園とその周辺にあるモニュメントの多さに驚かされました。

春休み期間ということもあってか、子ども連れの訪問者が多いように感じました。私たちがボランティアの方から話を伺っているときには、横で一緒に話を聞こうとしている方もいました。少しでも多くのことを知りたいという思いは、同じようでした。また、たくさんの方の欧米の方が公園内に見学に来られていました。原爆の悲惨さや平和への関心の高さがうかがえました。

学んだことはたくさんありましたが、プレスコード（情報統制）で慰霊碑には原爆の文字は使用できなかったことや、記念公園内は1メートルほど盛り土がされていることなどがあります。（土が盛られたのはなぜでしょうか。それは、かつてここは広島市の繁華街だったので、破壊された建物の土台や一部がたくさん残り、それを平坦に

平和への思い、 自分の言葉で伝えよう



平和記念公園の慰霊碑

するために盛り土がされたのだそうです。）こういったことは、個人で見学するだけではなかなか分からないことです。

そして、心に残っている2つの言葉。「安らかに眠って下さい 過ちは 繰返ませぬから」「原爆の毒がうつる」。それぞれ原爆死没者慰霊碑に刻まれた言葉で、被爆2世の方のお言葉です。人間は失敗をするものですが、戦争という過ちは繰り返してはいけません。そして、被爆したことで今も苦しんでいる方がいることを伝え、私も肝に銘じたいと思います。

個人でできることは限られています。しかし、今回は4人の参加者がいました。おのおのが「学んだこと、知っ

たこと、聞いたことを受け止めて、平和への思い」を伝えていけば、より多くの方が学んだり行動を始めたりするきっかけになります。今回は戦争の視点から平和について考えましたが、次は別の視点から平和について考えていきたいと思います。（関本祐樹）

contents

活動フォトニュース	2
シリーズ この人に聞く 第10回 近藤紘子さん	4
活動紹介	
ユニセフすざろく	6
活動日誌（5月～7月）	7